

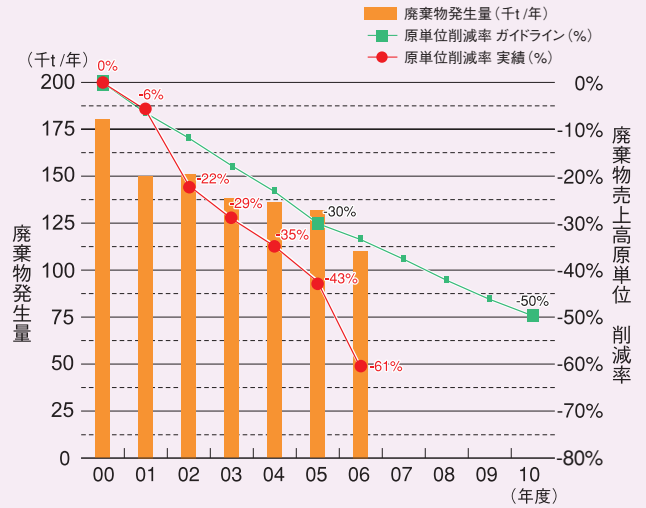
## 環境改善の取り組み(その2)

### 廃棄物削減

廃棄物の削減についても、環境基本方針に基づき、2000年度を基準に2010年度末までに全所社の廃棄物売上高原単位(廃棄物発生量/売上高)の削減率目標値ガイドラインを設定して廃棄物削減に取り組んでおります。2006年度も、特に廃プラスチック、廃油などのリサイクルを推進してまいりました。全体としてガイドラインをクリアしております。

今後も、三井金属グループ内のほとんどの所社でISO14001認証を取得しましたので、より一層廃棄物削減などの成果が上がるよう、系統的に推進してまいります。

三井金属グループ廃棄物削減 計画&実績



※注(2005年の環境報告書のグラフからの変更) 関係官庁のご指導により00~05年度の廃棄物の種類及び量を見直しました。

### 環境汚染物質の排出量削減

2001年施行のPRTR法(化学物質管理促進法)に基づき、三井金属グループの化学物質の排出量・移動量を取りまとめました。排出量の上位10物質で全体の99%を占めております。マンガン、鉛、砒素などで排出量が減少しております。

圧延加工事業部では2005年度より部材の洗浄剤であるトリクロロエチレンの使用を中止しております。神岡部品工業(株)でも、2005年度より部品の洗浄剤として使用していたジクロロメタンを順次温水洗浄に切り替え

たことにより、2006年度末には完全に使用を中止しております。

また、自動車機器事業部、ダイカスト事業部、機能粉事業部、マイクロサーキット事業部を中心とする部門では、RoHS、REACHなどの欧州規制に関するユーザー要望を受け、製品含有化学物質管理ガイドライン等に的確に対応しております。

今後も三井金属グループは、環境汚染化学物質の使用中止、代替化、回収などにより排出削減に努めてまいります。

三井金属グループPRTR対象物質の排出量・移動量集計結果(2004~2006年度実績)

単位:kg

物質番号	対象物質名 (排出量合計順)	2004年度		2005年度		2006年度							
		排出量合計	移動量合計	排出量合計	移動量合計	排出量				排出量合計	移動量		移動量合計
						大気	公共用水域	土壌	事業所における埋立処分		下水道	当該事業所の外へ	
1	230 鉛及びその化合物	1,144,816	4,671	1,060,833	3,076	6,441	2,412	0	816,830	825,683	1	8,837	8,838
2	311 マンガン及びその化合物	2,783,913	83,000	2,076,499	83,001	78	8,622	0	742,000	750,701	0.4	79,500	79,500
3	227 トルエン	126,806	22,500	131,007	27,000	130,400	15	0	0	130,415	0	15,500	15,500
4	283 ふっ化水素及びその水溶性塩	92,597	10	105,573	14	351	91,671	0	100	92,122	0	72	72
5	252 砒素及びその無機化合物	275,023	1,500	339,614	1,300	1,938	2,190	0	82,000	86,129	0	1,650	1,650
6	304 ほう素及びその化合物	70,323	5,100	72,260	11,650	1,123	69,663	0	2,600	73,386	0	14,563	14,563
7	207 銅水溶性塩(錯塩を除く)	19,781	136,320	22,718	185,180	554	3,844	0	41,130	45,529	0	182,150	182,150
8	232 ニッケル化合物	59,307	7,770	39,659	1,537	6	370	0	36,380	36,757	3	12,500	12,503
9	181 チオ尿素	5,300	54,000	8,400	16,000	0	10,000	0	0	10,000	0	19,000	19,000
10	63 キシレン	5,674	700	13,702	220	9,417	3	0	0	9,420	0	1,020	1,020
23	145 ジクロロメタン(別名塩化メチレン)	16,500	3,300	1,300	800	80	0	0	0	80	0	120	120
36	211 トリクロロエチレン	27,000	20,200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※2006年度の排出量が上位10物質までと本文掲載のジクロロメタンとトリクロロエチレンの環境汚染化学物質について掲載